

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ててスクール 浦和教室			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数)	35
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの障害に対応した学習サポート及び進路相談の充実	学校の課題を消化することを中心に、戻り学習や基礎学力維持の時間を提供。特別支援学校を中心に受験に向けた取り組みをサポート。保護者様には将来の進路に向けて面談を実施し職員2～3名同席で多角的にアドバイスを提供。高校生にはパソコン(タイピング練習)やお金の計算を中心に生活に直結した課題を提供。	職員間で利用児の情報を今以上にタイムリーに共有する。学校等の教育機関や相談支援機関とさらに連携を深める。プリント学習に偏らず、育脳に関わる教材(パズル等)や生活に関わる手作り教材(買い物・銀行・料理など)を積極的に取り入れ「自立」に役立つ支援をする。
2	小集団行動と個別行動の配慮を取り入れた楽しい放課後の提供	休み時間や育脳工作の充実。小集団行動ではボードゲームやカードゲームを通してルールの習得などを慣れ親しんだメンバーで学び、個別行動では自分の趣味を優先してぬり絵などに取り組みリラックスした楽しい時間を過ごす。また、育脳工作では、季節を感じられるテーマで指先の巧緻性を伸ばし手作りの楽しさを体感する。	職員が積極的に声掛けをする事で利用児同士がスムーズに交流出来る事が多い為、より一層楽しい放課後に向けて声掛けの場面を増やす。また、育脳工作への参加はいくつかの見本を見せたり、作業工程をわかりやすくしたりすることで興味を持ちやすくする。
3	表現力や説明力を伸ばす療育活動	伝えたい思いに溢れている利用児には寄り添い話を良く聞いている。また、声掛けがないと言葉に出ない利用児には時系列を意識してゆっくり問いかけ発することを促している。「ひとこと日記」等を導入し、表現したり説明したりすることを学んでいる。	利用児の興味の高い書籍や図鑑を用意して発言したい気持ちを促す。利用児から発信してくる話題に職員が興味を持ち、会話に結びつける努力をして、相手に伝えたい気持ちに伴い表現力や説明力を育てる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動に関するアプローチ	全体で一斉に運動をするには十分とは言えない施設の広さの為、運動に関する提案はほとんどない。	施設の広さに左右されず、手先の運動・足の運動など省スペースでも利用児が楽しく体を動かして取り組めそうなプログラムを取り入れる。
2	専門性を求められる療育活動	言語聴覚士等が在籍していないので、練習や訓練を求められた時に対応が出来ない。	職員が出席可能な研修は積極的に参加する。参加内容は、職員同士及び他事業所とも連携し利用児のより良い療育の為に積極的に共有する。
3	指導員がスキルアップする為の場の提供不足	利用児の情報共有と教材の準備時間で手一杯になりがちなのが悩み。その教材について知識を深め新しいことに挑戦したり、スキルアップしたりする場が十分と言えない。	社員を軸に、教材の種類の確認・その利用方法などの理解を深め、利用児により適切な指導を行えるようにする。また、適宜その子にあった教材の作成・研究を積極的に行う。